

2009年度事業報告書

NPO法人近畿アグリハイテク

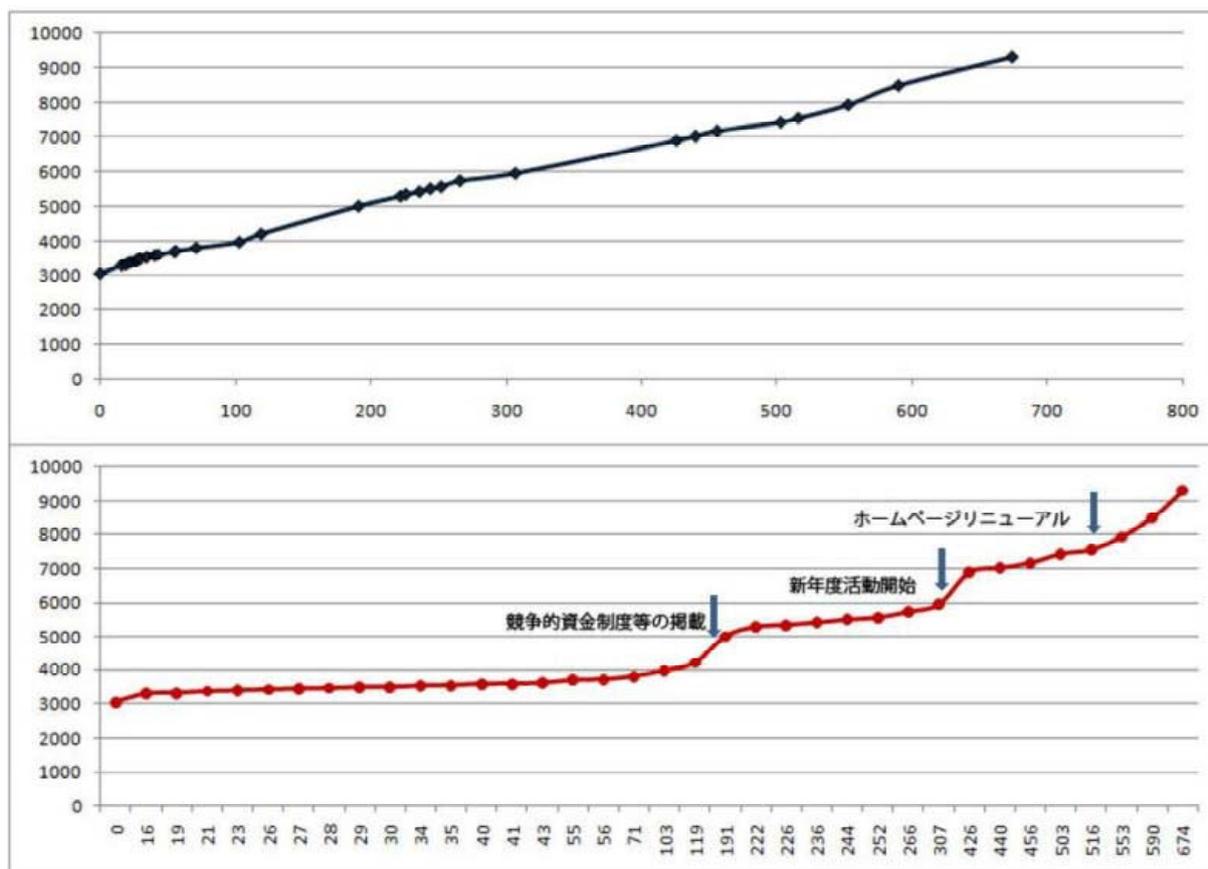
農林水産・食品バイオテクノロジー等先端技術(以下「アグリハイテク」という)等に関する情報の収集・提供、共同研究・技術開発のコーディネート等を行うことにより、近畿地域におけるアグリハイテクの研究の推進とこれによる農林水産業及び食品産業の発展を図ることを目的として、下記の事業を実施した。

1. アグリハイテクに関する研究および知的財産情報等の収集・提供

昨年度より、競争的資金公募情報やシンポジウムの案内など、関係すると思われる情報についてはその都度同報の会員通信として情報提供することとしたが、今年度は31回行った。

ホームページを見られたり、シンポジウム等に参加されたりした等で近畿アグリハイテクの活動を知られた方々から、技術相談や研究内容の相談、情報提供の依頼、特許相談等、数々の相談が寄せられた。それらに対応する中で、近畿アグリハイテクの会員となっていただいた方もあり、近畿アグリハイテクの活動に対する信頼度が一定程度増したのではないかとと思われる。

具体的には、技術相談10(うち企業8、公設試1、民間団体1)、研究相談36(うち大学18、公設試14、民間団体3、独法1)、情報提供依頼15(うち民間団体7、企業5、学校2、公設試1)、特許相談1(公設試)であった。こうしたアドバイザー活動は、近畿アグリハイテクの中心的活動として今後も積極的に



推進してゆく。

一昨年(2008年)の5月に新しいホームページを立ち上げて以来、2010年3月31日までの約2年弱のアクセスカウンターの推移を上に示した。

「平成21年度競争的資金等説明会」の記事を掲載した2008年12月5日(上図の最初の矢印)以後、アクセス数が伸びており、HPをリニューアルした2009年10月26日以降アクセス数も上昇する傾向を見せている。

2. コーディネート活動の促進

(1) コーディネーター等人材育成

これまで活動の対象としてきた2府4県に加えて、今年度は福井県を対象に加え、これらの府県にある大学、公設試、企業、企業団体等への訪問活動を行った。具体的には、滋賀県の企業団体1機関、京都府の大学3機関、企業2機関、企業団体1機関、大阪府の大学2機関、企業1機関、兵庫県の大学3機関、企業団体1機関、福井県の公設試2機関を訪問した。

近畿地域に拠点をおく大学の産学官連携支援センターやリエゾンセンターをはじめとする団体等と連携して、東京等で全国団体等が開催するコーディネーター育成講座等への参加を呼びかけ、1機関から1名の参加希望があったが、直前になり、業務との調整がつかず不参加となった。

(2) 産学官連携共同研究推進会議の開催

近畿中国四国農業研究センターと共同で産学官連携共同研究推進会議を2回開催した。会議には合計12課題が提案され、そのうち11課題が競争的資金に提案された。提案課題の多かった公設試については、別途個別検討会を行った。

これらとは別に、個別にブラッシュアップを求めてきた10課題については、個別にブラッシュアップを行った(これらはすべて競争的資金に提案された)。

(3) 競争的資金制度等説明会の開催等

今年度は政治情勢の変化により、12月中の開催ができず、1月の開催となったが、近畿農政局と共同で開催した説明会には、96名の参加があった。今回は、農林水産省の競争的資金に加えて、JSTの資金制度についても説明をしてもらった。

2009年5月には、「省庁別競争的資金制度一覧」を会員を中心に配布した。

(4) 研究会活動の促進

昨年度発足させた「近畿地域大豆研究会」のシンポジウムを開催するとともに、研究会ニュースを4回発行した。

さらに、立命館大学(くさつ・びわこキャンパス)と連携して、「明日の農と食を考える会」を発足させ、2010年3月10日に設立記念講演会を開催し、産・学・公・個人あわせて90名以上の参加があった。

3. 産学官の連携・交流の場の提供

(1) アグリビジネス創出フェアへの参加と近畿地域での開催

2009年11月25～27日に幕張メッセで開催された農林水産省主催の「アグリビジネス創出フェア」に出展した。今回は、近畿地域大豆研究会の紹介を行った他に、近畿アグリハイテクのホームページ

をパソコンとディスプレイを用いて紹介した。また、コーディネーター登録を行い、相談に応じた。

特許庁、近畿経済産業局、近畿知財戦略本部が主催した「知財ビジネスマッチングフェア2009」(2009年10月21～22日、インテックス大阪)に、近畿農政局、(独)農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターと共に共催で参加し、アグリビジネスのコーナーを担当した。アグリビジネスゾーンには、25団体が出展した。また、2日目の午後に、アグリビジネス関係講演会を開催し130名の参加があった。

- 内容 1. 「リグニンからのグリーンプラスチックの製造技術」
大原 誠資((独)森林総合研究所)
2. 「触媒を使わないバイオディーゼル燃料製造技術」
鍋谷 浩志((独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所)
3. 「植物工場事業への取り組み」 中村 謙治(エスペックミック株式会社)

(2)講演会の開催

総会にあわせて開催している講演会を、今年度は20周年記念事業の一環として2009年6月18日に、「おいしさとは何か」と題して、市民の関心の高い「健康と栄養」に関するテーマで開催し、82名の参加があった。具体的には、マクロな視点からおいしさを支配する要因についての講演と、分子生物学レベルでのおいしさの科学について講演していただいた。

- 内容 1. 「分子レベルでの味覚受容機構の解明とその応用」
日下部 裕子((独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所)
2. 「やみつきを支配する旨味の科学」 伏木 亨(京都大学大学院農学研究科)

(3)シンポジウムの開催

アグリハイテクに関する特定分野の研究成果、この分野の製品開発・商品化事例等の紹介など最新の情報を提供し、産学官連携等を促進するためシンポジウムを開催した。

1)第48回近畿アグリハイテクシンポジウム

「生産現場におけるイノベーションに向けて(3)ー機能の研究が新商品開発につながったー」

(2009年11月5日、キャンパスプラザ京都:43名の参加)

- 内容 1. 「酵素的改変による柑橘由来ヘスペリジンの機能性素材としての開発」
米谷 俊(江崎グリコ株式会社)
2. 「辛くない新種のトウガラシ成分カプシエイトを活用したサプリメントの開発」
三輪 哲也(味の素株式会社)
3. 「カレースライス・フェヌグリークの糖尿病・メタボリックシンドロームに対する機能性」 植村 卓(京都大学大学院農学研究科)
4. 「凍結含浸法を用いた硬さ制御技術による高齢者・介護用食品の開発ータケノコの形はそのままなのにババロアのように柔らかい?ー」
坂本 宏司(広島県立総合技術研究所食品工業技術センター)

2)第49回近畿アグリハイテクシンポジウム・第2回近畿地域大豆研究会シンポジウム

「大豆生産の安定化と利用の拡大を目指して」

(2010年1月15日、京都テルサ:65名の参加)

- 内容 1. 「ダイズの自給率の向上を目指してー発芽時冠水抵抗性の付与」

- 谷坂 隆俊(京都大学大学院農学研究科)
2. 「DNA情報等を利用したダイズ茎疫病抵抗性付与に関する研究」
杉本 琢真(兵庫県立農林水産技術総合センター)
 3. 「大豆成分の生活習慣病予防効果の系統的レビューとメタ分析」
石見 佳子(国立健康・栄養研究所)
 4. 「大豆成分による神経変性疾患の予防効果」
長井 薫(山梨大学大学院医学工学総合研究部)
 5. 「大豆ペプチドの新規機能性と食品微生物機能改良への利用」
井沢 真吾(京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科)
 6. 「Breeding Progress for Increasing Soybean Yield: Past, Present, and Future」 Randall L. Nelson(イリノイ大学)

3) 第50回近畿アグリハイテクシンポジウム

「地球温暖化防止に貢献する農林分野のバイオマス活用技術」

(2010年3月15日、京都テルサ:61名の参加)

- 内容
1. 「バイオコークスによる低炭素社会を実現するためのシナリオ」
井田 民男(近畿大学理工学部)
 2. 「草木バイオマスの浮遊外熱式ガス化と液体燃料合成」
坂井 正康(長崎総合科学大学新技術創成研究所)
 3. 「高バイオマス量サトウキビを用いたバイオエタノール生産－伊江島における実証試験－」 小原 聡(アサヒビール(株)コーポレート研究開発本部)
 4. 「環境負荷軽減に貢献するデュポンのバイオ技術と商品化」
賀来 群雄(デュポン株式会社先端技術研究所)

(4) インターネット等による情報発信の充実・強化

2009年3月に策定した「事業戦略」の中で、“今後は内容を一層充実させるとともに、折に触れてホームページの存在を広報し、名実ともに近畿アグリハイテクの情報発信ツールに育て上げることが必要です。”とありますが、見栄えを一層良くするためにプロに依頼して、デザインを一新したホームページを10月26日にオープンさせた。それに併せて、近畿アグリハイテクのロゴマークとロゴタイプを制作した。



特定非営利活動法人

近畿アグリハイテク

ロゴマークの説明

緑を基調として、北山台杉ともネットワークか配線図ともとれる形を配することで“アグリ”“ハイテク”を表しました。

一つの元から分かれる3つの枝は、近畿アグリハイテクの活動が目指している、「農林水」「産学官(公)」「植物、動物、微生物」「農畜産物生産、食品加工、販売消費」「農業者、加工業者、生活者」の連携・発展というそれぞれ3つの対象を表しています。

リニューアルしたホームページでは、近畿アグリハイテクへの問い合わせを容易にするための問い合わせフォームのページを設けた (<http://www.kinkiagri.or.jp/toiawase-mailform/mail.html>)。

インターネットによる情報発信を、近畿アグリハイテクの外部向けの活動の主要な武器と位置づけ、ホームページのコンテンツの充実に努めた。具体的には、これまでの講演会、シンポジウム講演要旨集をPDF化するとともに、ホームページから閲覧できるようにした。

さらに、「事業戦略」では、“講演会・シンポジウム、あるいはホームページを通じた情報発信の内容については、現在までのところでは、アグリハイテクに関する研究成果情報、技術情報が中心となっていますが、食の安心と安全に対する国民の関心が依然高いことから、今後は市民対象にしたこの分野の情報発信についても、近畿農政局と連携をとりながら、積極的に進めていく必要”について述べています。この目的のため、ホームページに「食と農の情報館」のページを設け、“食の安全と安心を巡って”“豊かで楽しい食生活のために”“日本農業の健全な発展を願って”“わが国の環境・生物多様性を守るために”の4つのジャンルについて用語解説やトピックスの紹介等を行った。今後は、適宜コンテンツを増やしてゆく予定である。



(5) 他団体主催のフェア等への積極的な参加

2009年9月9日～11日にインテックス大阪で開催された、(社)大阪国際見本市委員会主催の「外食・中食設備機器フェア2009」に大豆研究会とともに出展するとともに、大学・独法・公設試が開発した食材・技術を展示するコーナーをプロモートした。

4. その他の活動

(1) 近畿地域研究・普及連絡会議への参加

2009年7月1日および10月23日に開催された「平成21年度近畿地域研究・普及連絡会議」に出席し、意見交換を行った。

(2) 「近畿産大豆新技術導入・定着、需要拡大協議会」への参加

2009年7月24日に開催された標記の会議に出席し、情報交換を行った。

(3) 他団体の活動への支援

- ① 2009年7月30日に開催された、近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産推進部会に出席し、近畿アグリハイテクの活動状況について情報提供した。
- ② 2009年9月4日に、近畿農政局農産課が受け入れたインターンシップ学生にアグリハイテクを中心にした講義を行った。
- ③ 2009年9月29日に開催された「大阪府立大学産学官連携フェア2009」の協力団体となった。
- ④ 2010年2月1日に(社)農林水産先端技術産業振興センターと(独)農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターが主催して開催された「産学官連携コーディネーションセミナー(富山)－技術経営(MOT)の視点から－」の後援を行った。また、2月3日に大阪で開催された同セミナーの後援を行うとともに、近畿地域における近畿アグリハイテクの活動状況についてスライドを用いて説明し、会員獲得に向けた活動を行った。

- ⑤2010年2月24日に、近畿産大豆新技術導入・定着、需要拡大協議会、(社)全国農業改良普及支援協会、近畿農政局が主催した「大豆の地産地消シンポジウム～地元産大豆にこだわって～」の後援をした。

《参考》

組織運営について

1)理事会の開催

2009年6月17日(木)10:15～12:15京都テルサ(東館、第3セミナー室)において、理事18名のうち出席11名、書面表決6名で理事会を開催し、総会に付議する事項を提案し、すべて了承された。

※5年以上役員を務めたものが退任する時に、法人から感謝状を贈呈する規程が了承されたことから、閉会に先立ち、今回で退任される役員のうち、田中國介、小川眞、瀧井傳一の3名の理事に感謝状と副賞の贈呈が行われた。

2)総会の開催

2009年6月18日(木)13:00～14:15京都テルサ(東館、第2・第3セミナー室)において、正会員99名中、出席23名、委任状提出50名の参加の下、総会を開催し、提案したすべての議案が了承された。

3)事務局会議の開催

2010年2月4日(木)15:00～17:00生産開発科学研究所において事務局会議が開催され、事務局長から、2009年度委託事業の報告と、2010年度委託事業の方向について説明があり、議論がなされた。